

# 千葉市立病院改革プラン (第3期:平成27～29年度)について

- 1 市民が必要とする安全・安心な医療を一人でも多くの市民に提供する。
- 2 健全な病院経営を確立し、市立病院を持続発展させる。

# 目指すべき病院像

地域医療構想において市立病院に必要とされる機能を備えるとともに、地域包括ケアシステムを中心とした地域完結型医療の確立に向けて、市内の医療機関がそれぞれの特徴を発揮できるよう病院の連携システムを構築し、その司令塔としての役割を果たす。

また、新生児から学童期までの小児医療を含む総合的な母子医療、県内トップレベルの高度な整形外科診療、認知症高齢者の救急医療や終末期医療を含む高齢者医療の確立にも積極的に関与し、少子高齢化に対応する病院を目指す。

さらに、千葉県保健医療計画(平成23～27年度)における5疾病(がん、脳卒中、急性心筋こうそく、糖尿病、精神疾患)、4事業(救急医療、災害時医療、周産期医療、小児医療)に対応するとともに、青葉病院での血液疾患や身体合併症を有する精神疾患、海浜病院でのがん診療や小児・周産期医療など、政策的医療にも積極的に取り組む病院を目指す。

## 【現改革プランの評価】

小児・周産期医療や救急医療など政策的医療の提供については、おおむね必要とされる機能を担っていると評価できるが、整形外科を集約した効果が表れていない。また、夜勤に必要な看護職員が不足し、一部の病床を休止せざるをえなかったことなどから病床利用率が伸び悩んだ。

## 【現状の課題】

現改革プランで進めた人員増などに見合った医業収益が確保できず、その結果、資金収支の悪化を招いている。また、中長期的な人材育成計画や、多職種が連携する医療に対応した職種別人材育成計画の策定が必要である。

- ・現改革プラン(新改革プラン)にて掲げた「病院局の使命」を引継ぐ。
- ・自治体病院としての使命・役割を理解し、市民から期待される役割を自ら考えることのできる職員の育成を目指し、人材育成を強化する。
- ・現改革プランの評価を踏まえ、経営改善を強力に推進し、医業収支比率90%以上を目指す。

- 1 どのような患者さんにも対応できる診療体制の確立
- 2 救急医療の充実
- 3 特色ある診療科のさらなる充実
- 4 地域医療への貢献
- 5 整形外科体制の運用方針の見直し
- 6 臨床検査部門の再編

## 1 政策的医療 及び市民に期待される医療の提供

- (1) 地域周産期母子医療センターの充実
- (2) 地域小児科センターの充実
- (3) がん診療連携協力病院としての機能強化
- (4) 整形外科入院機能の再開
- (5) 内科(呼吸器内科、糖尿病・代謝内科)の充実
- (6) 婦人科の充実
- (7) 総合内科・呼吸器外科の新設
- (8) 救急患者受け入れ機能の強化
- (9) 地域災害拠点病院としての機能強化

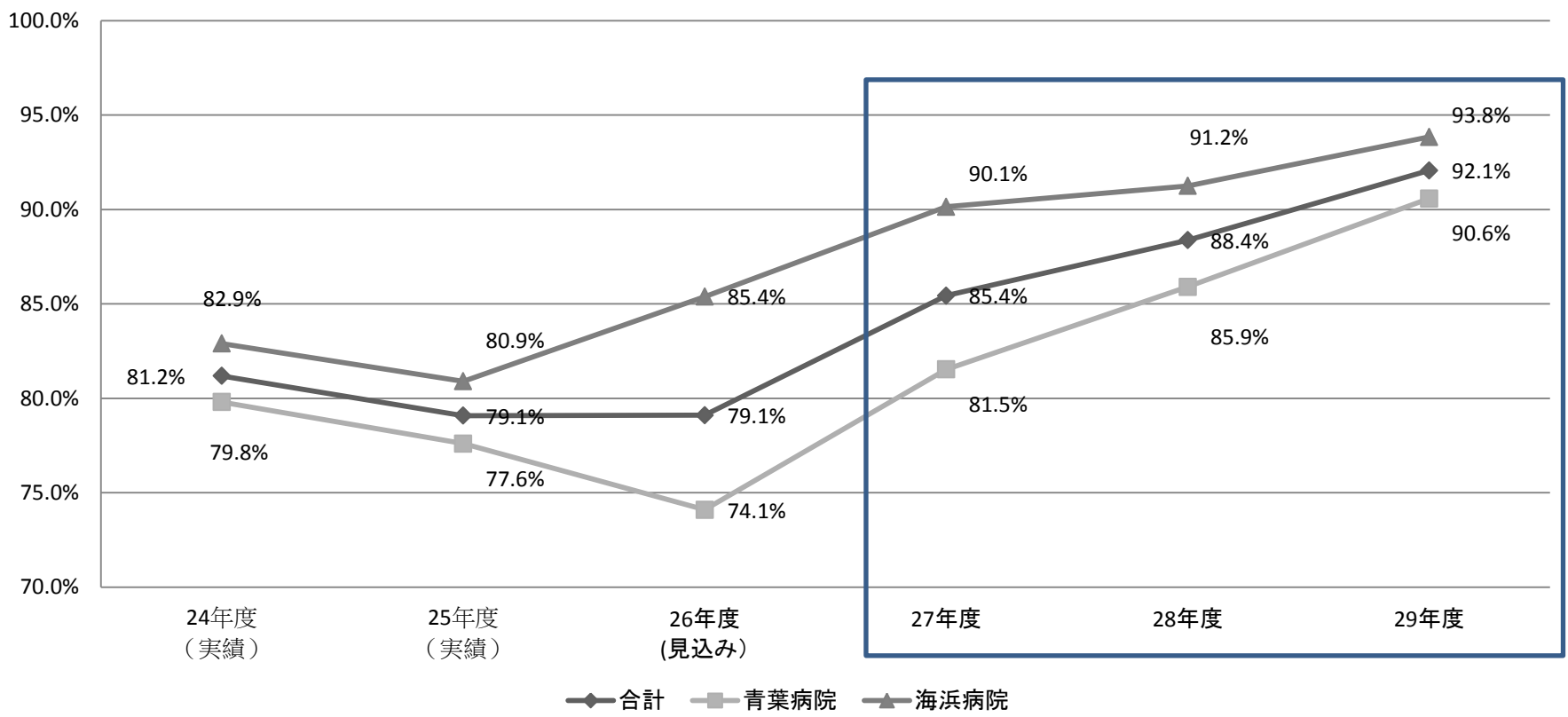
## 2 安定的な経営基盤の強化

- (1) 地域前方連携の強化
- (2) 病院運営機能の強化
- (3) 後方病床の確保

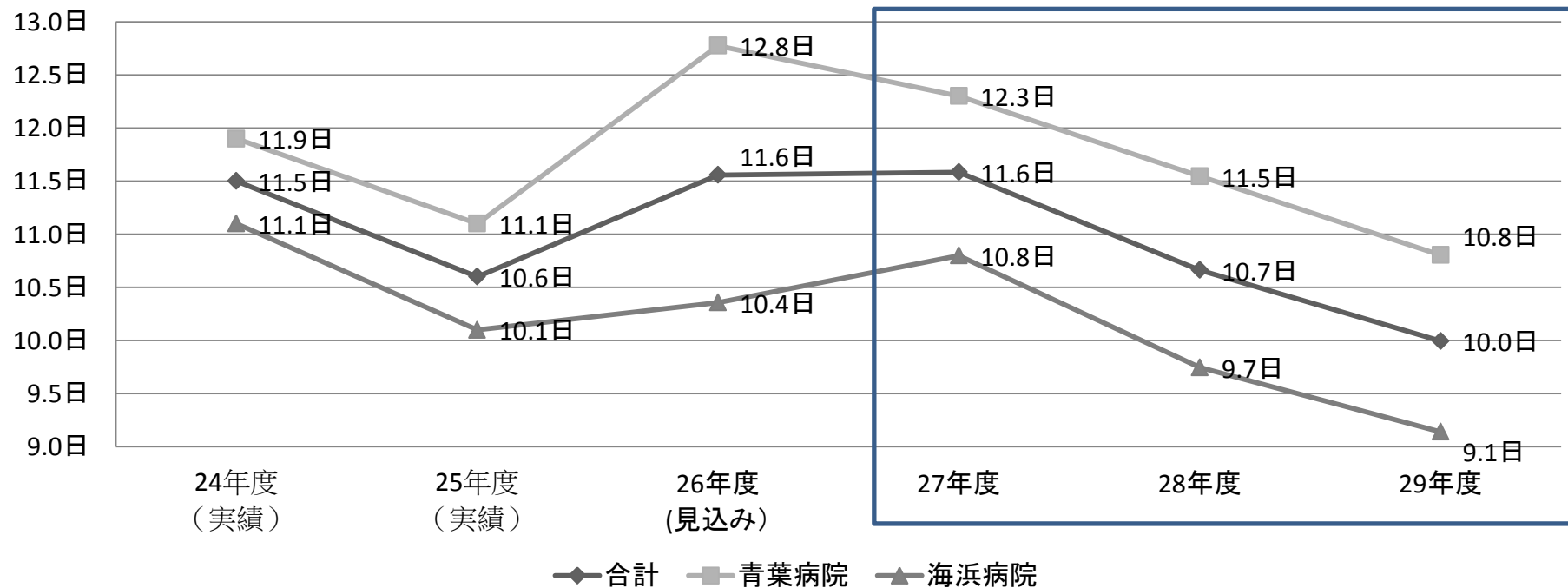
## 3 地域包括ケアシステムへの貢献

- 1 人材育成の取り組み強化
- 2 DPCデータの活用による経営分析の推進
- 3 医療と介護の連携強化
- 4 システム統合に向けた取り組みと業務プロセスの標準化・共通化の推進
- 5 クリニカルパスの推進
- 6 使用料等の見直し
- 7 支出の削減

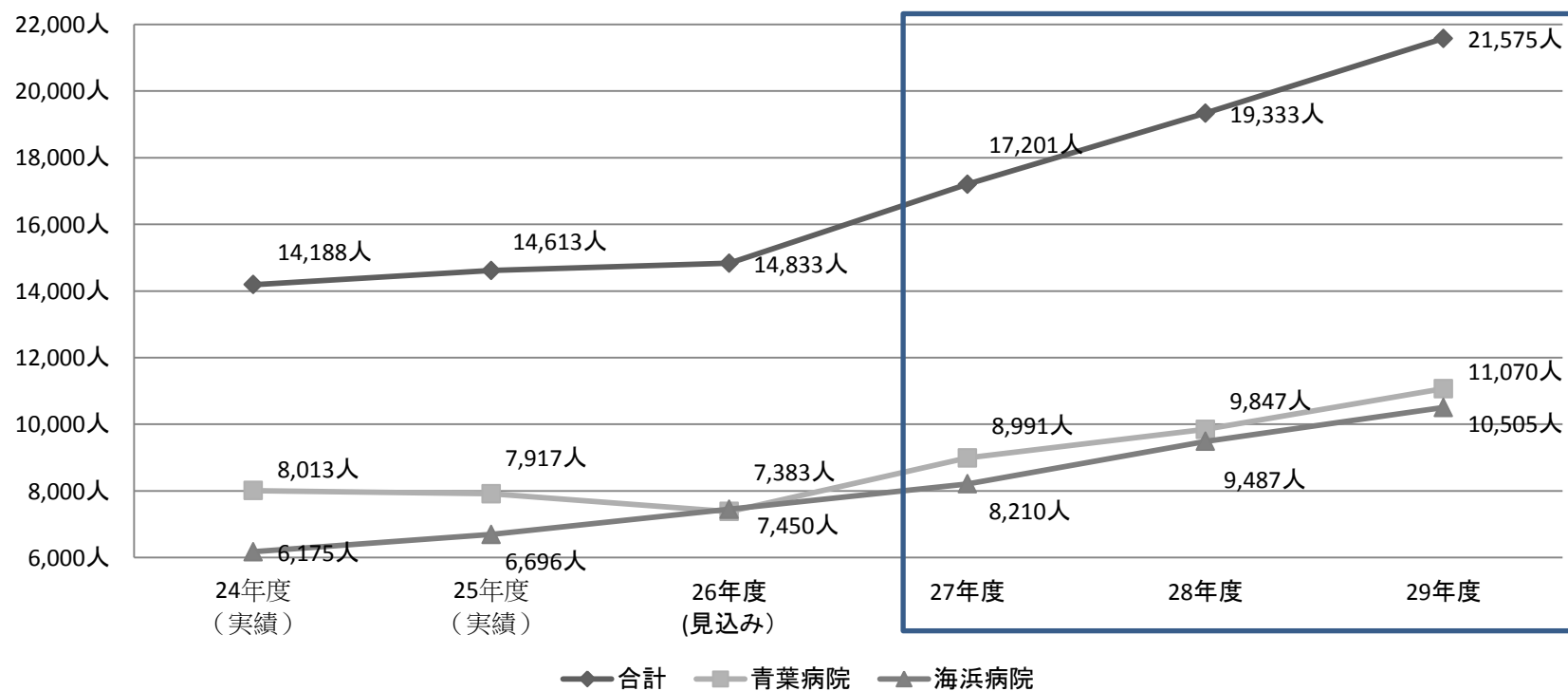
医業収支比率



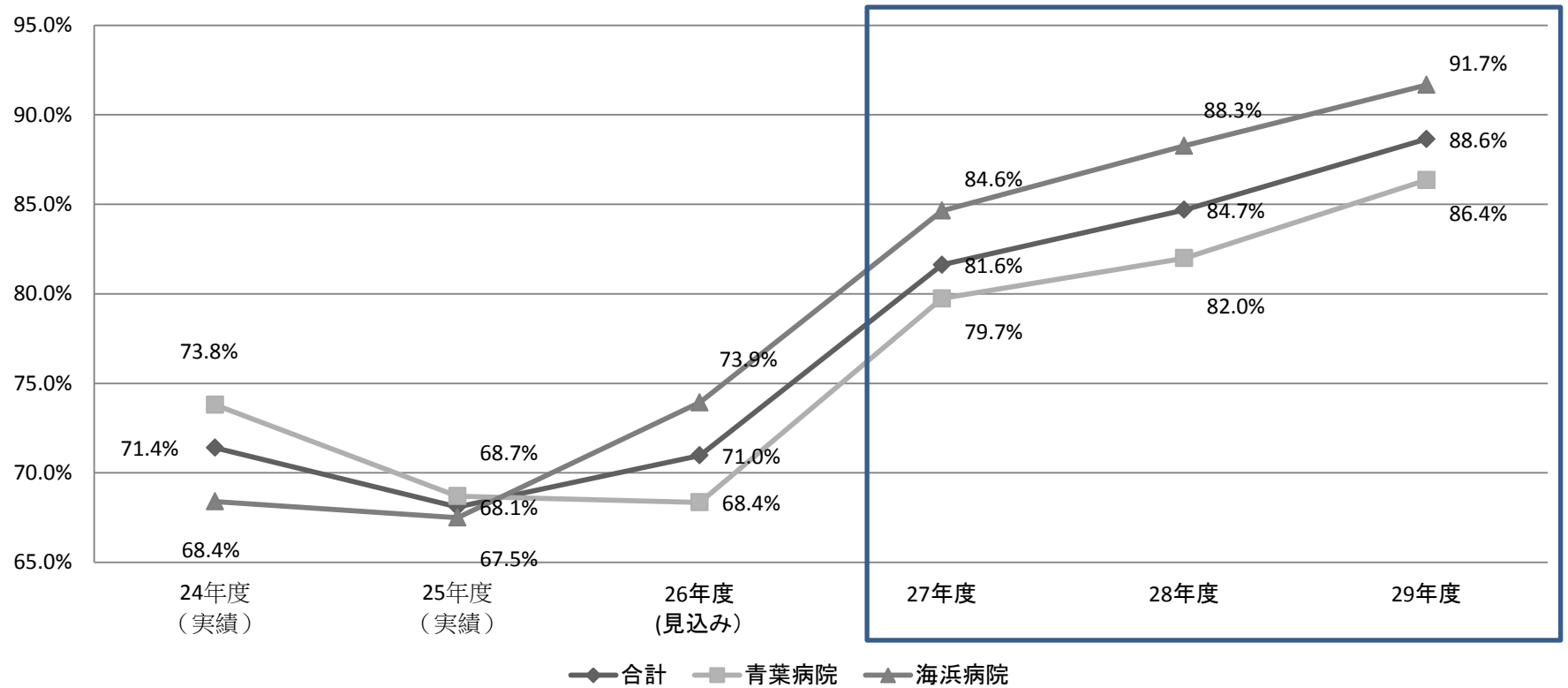
### 平均在院日数



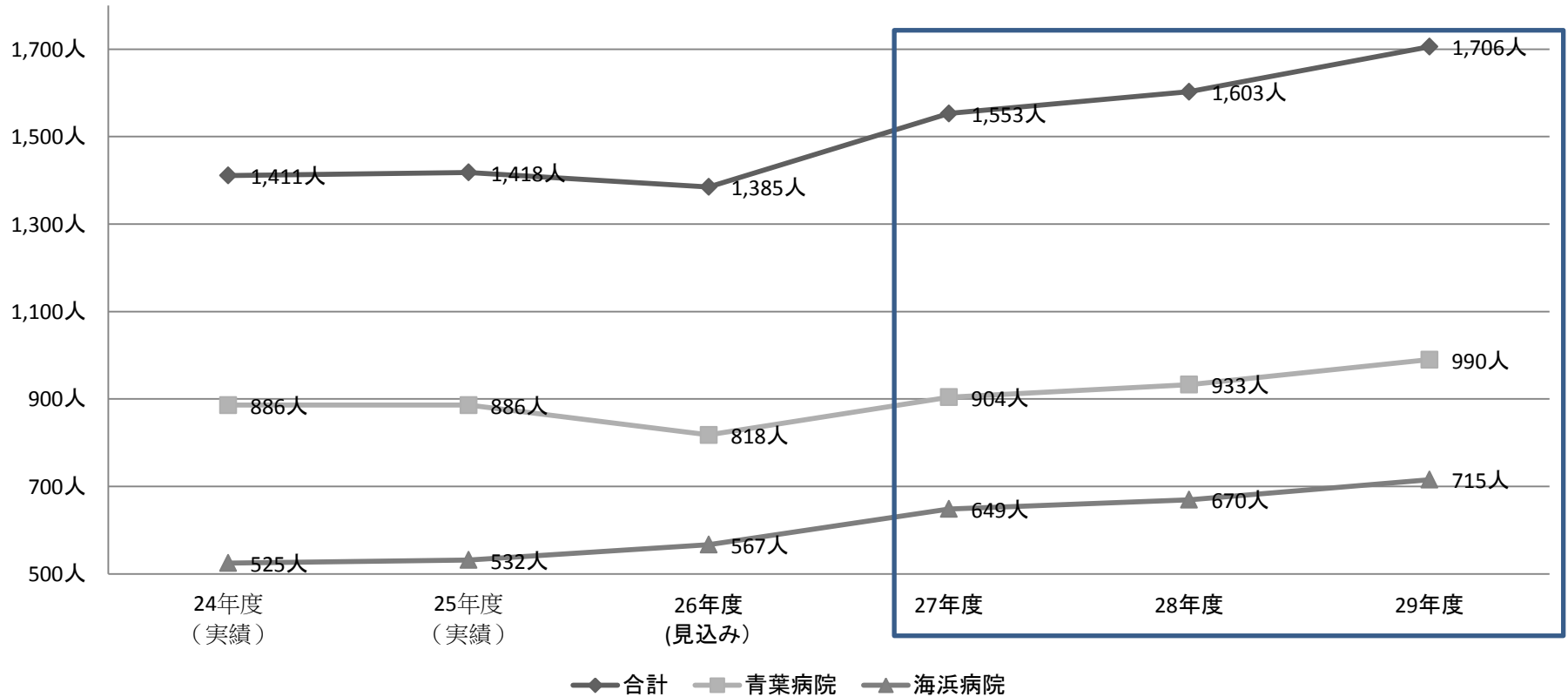
### 新規入院患者数



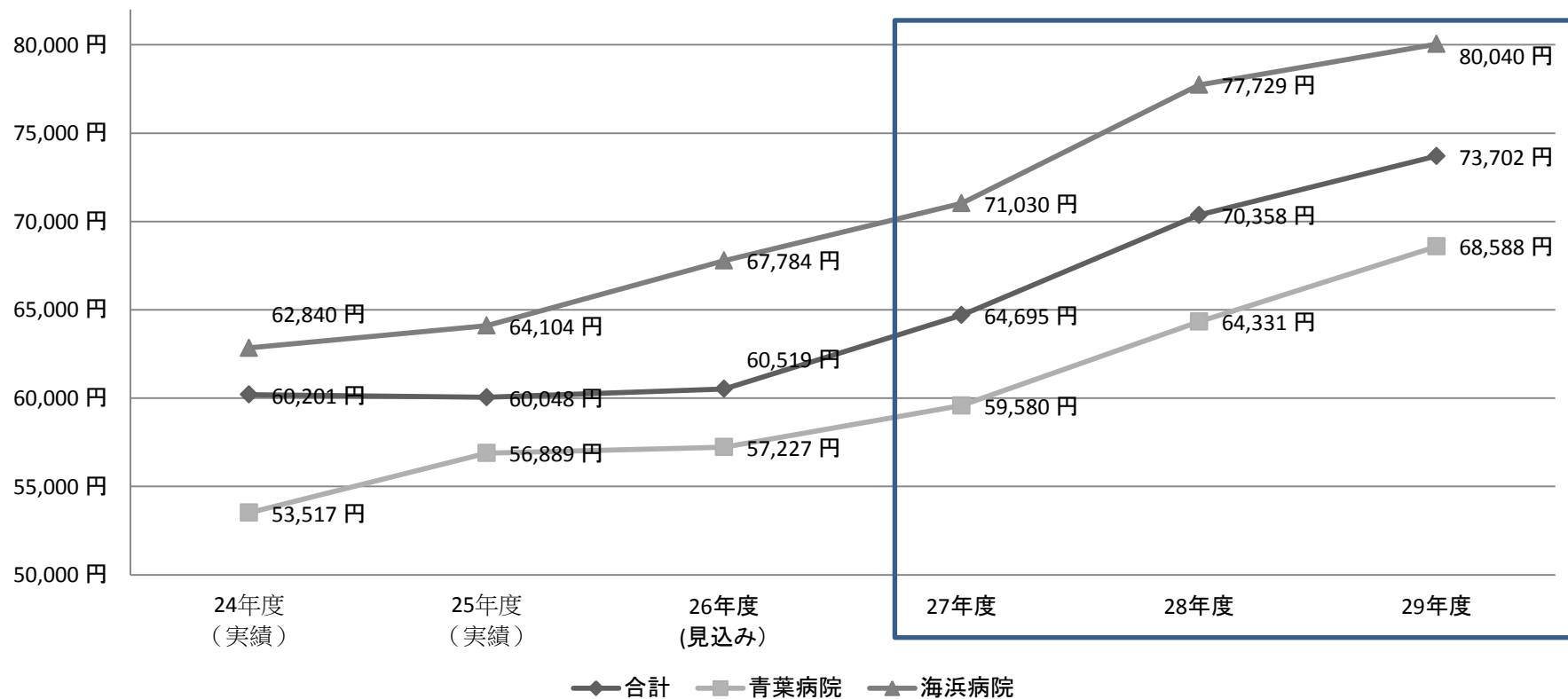
病床利用率



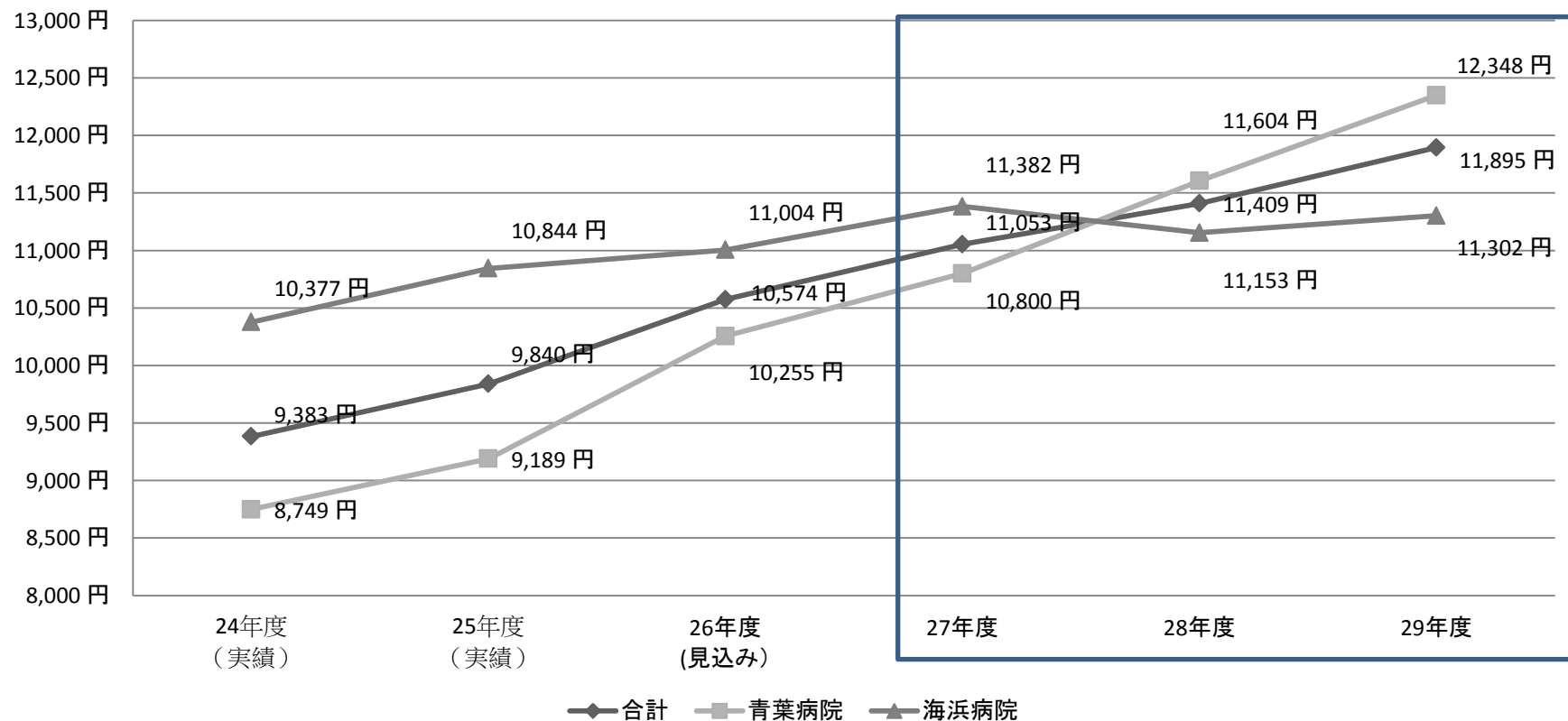
## 1日平均外来患者数



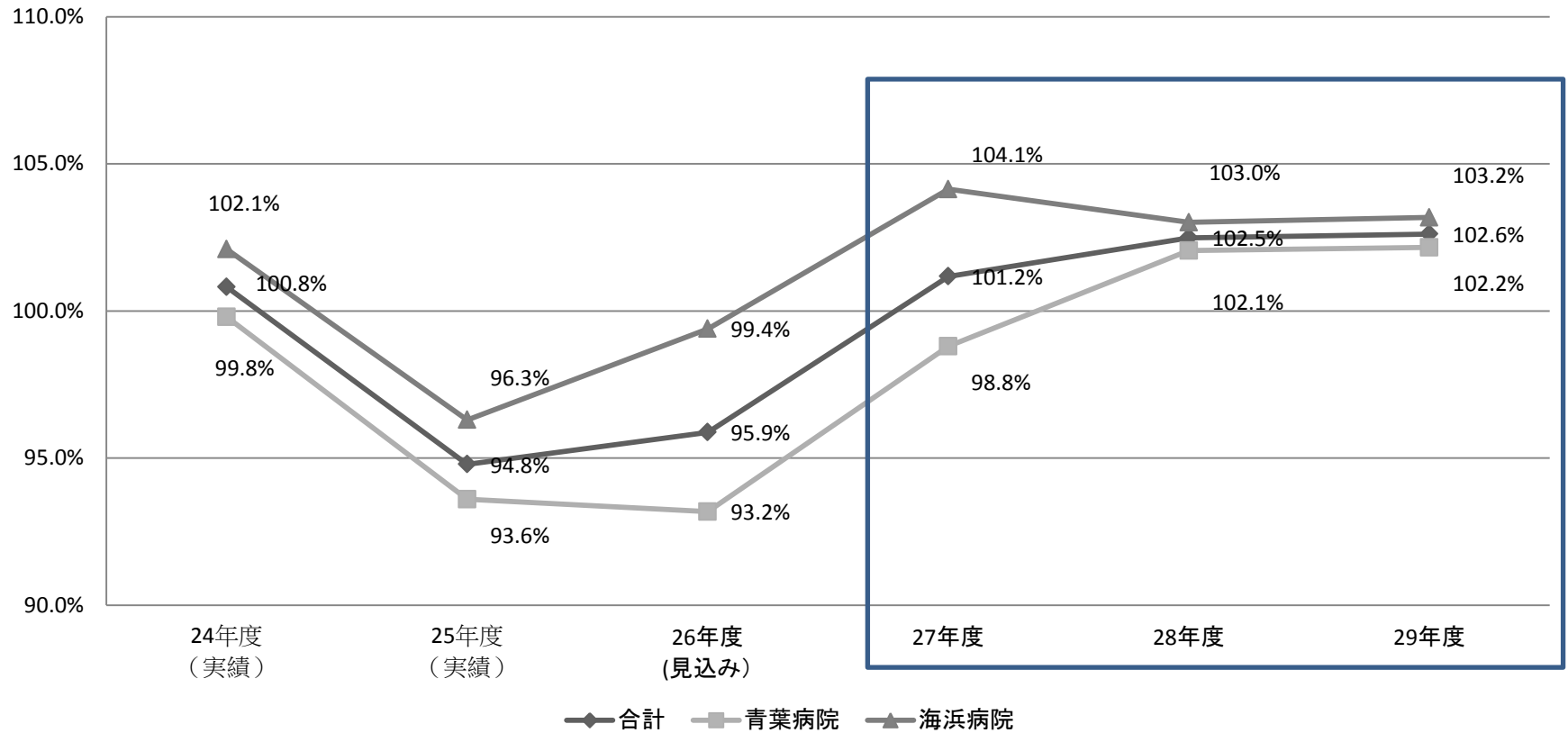
## 入院診療単価



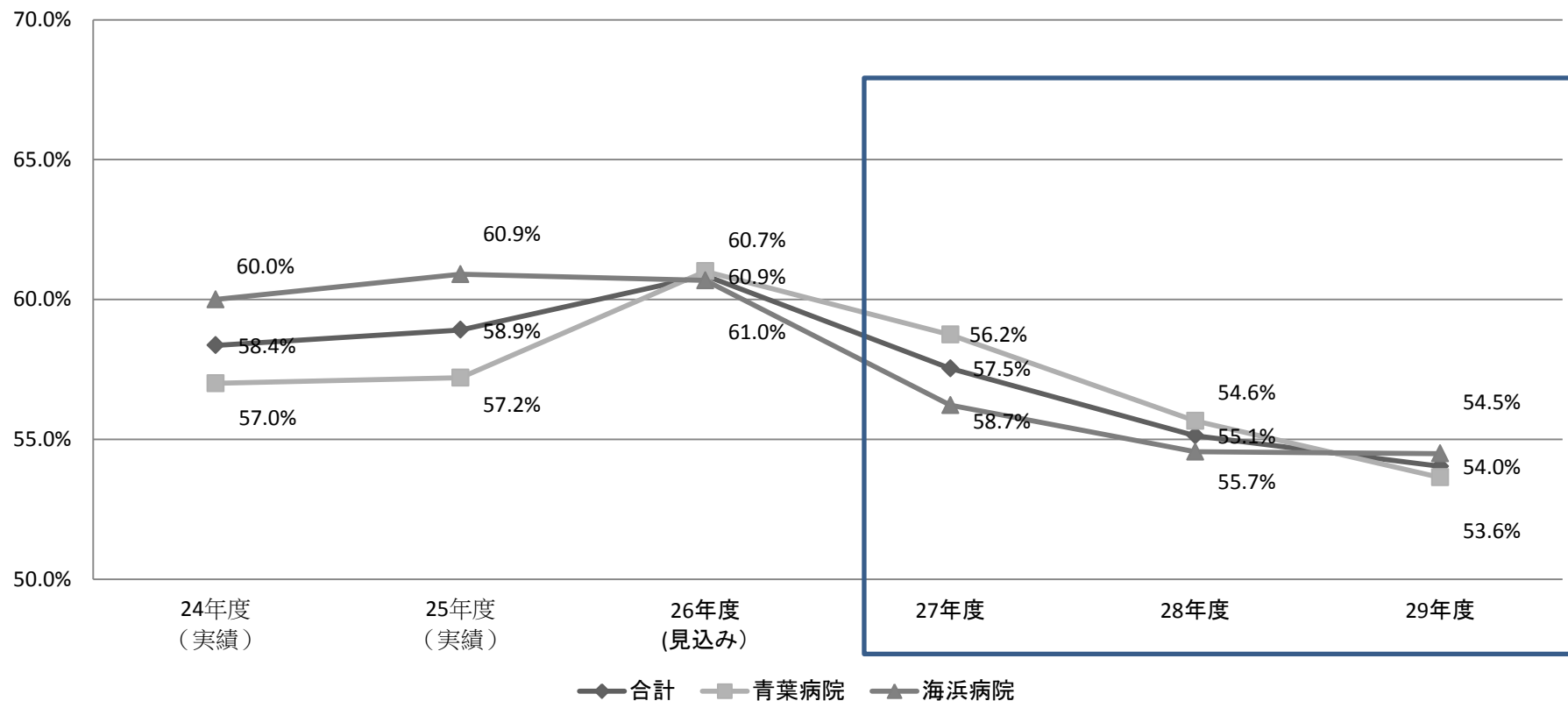
## 外来診療単価



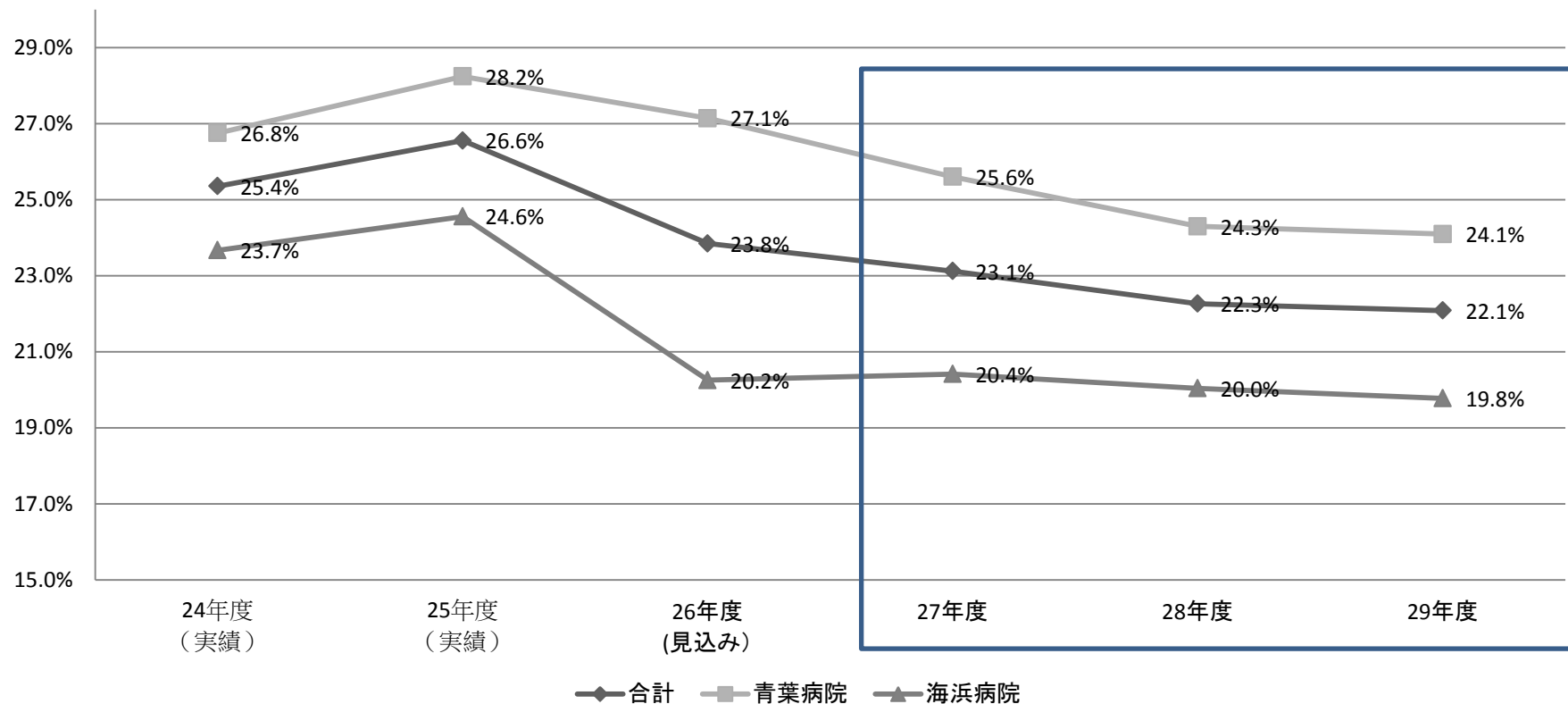
## 経常収支比率



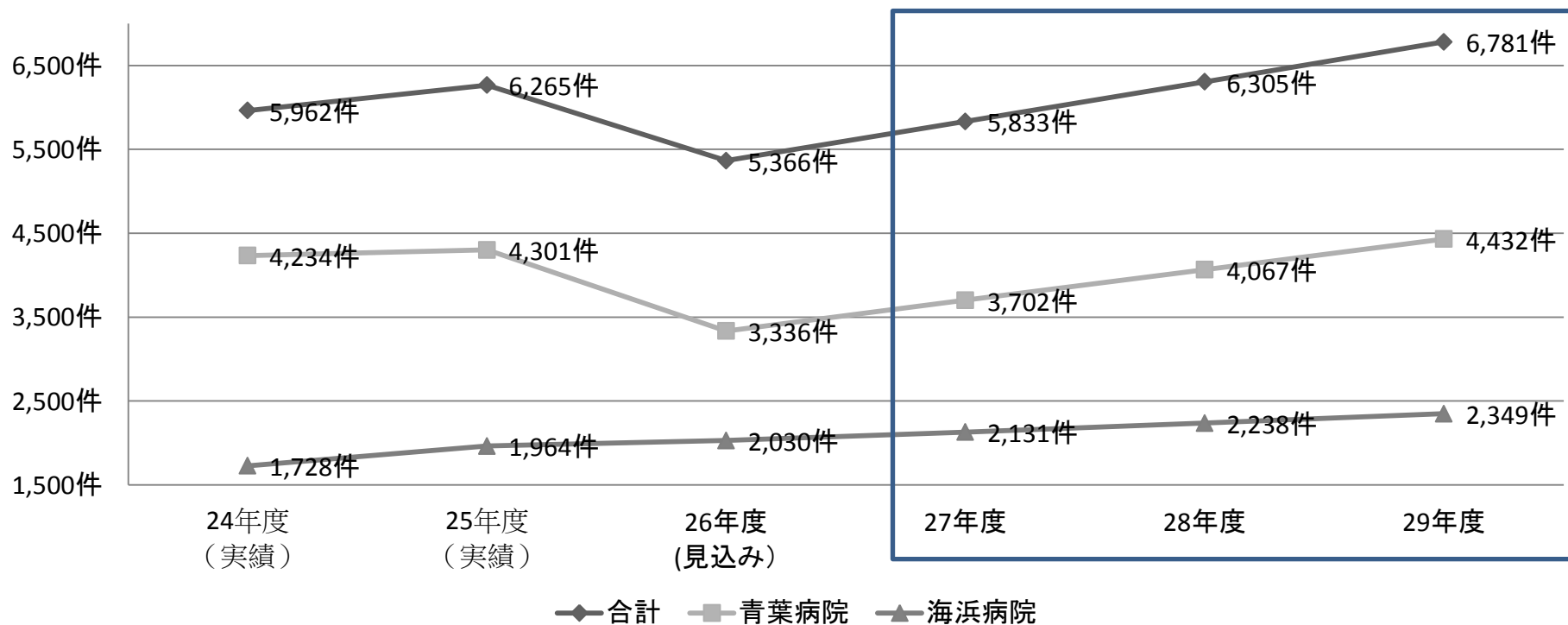
## 職員給与費対医業収益比率

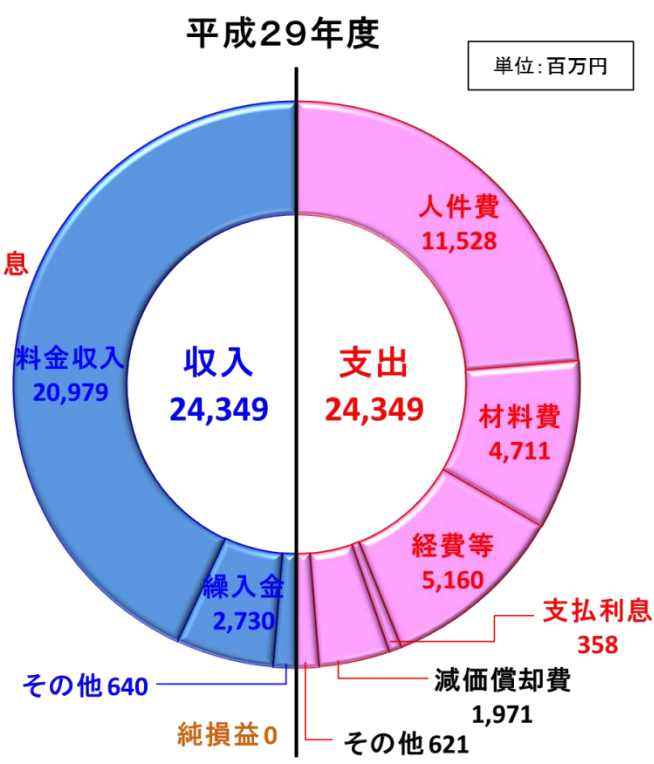
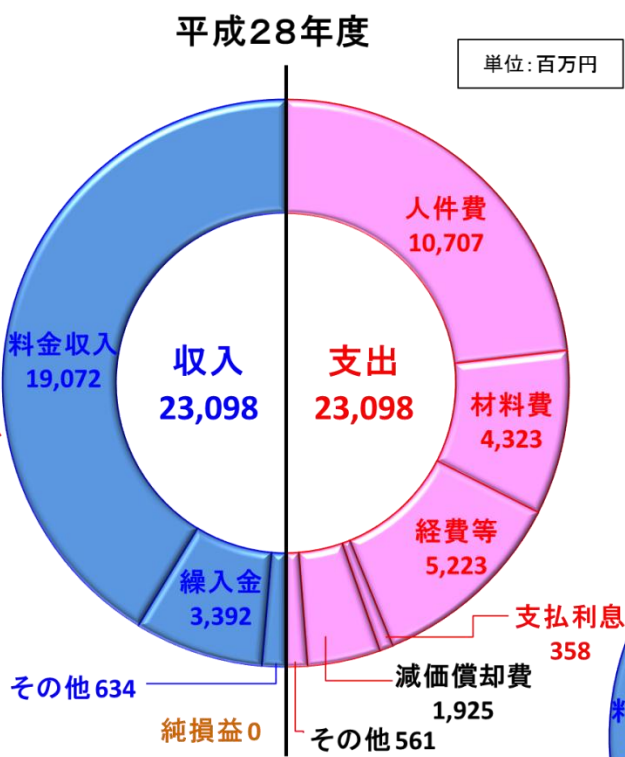
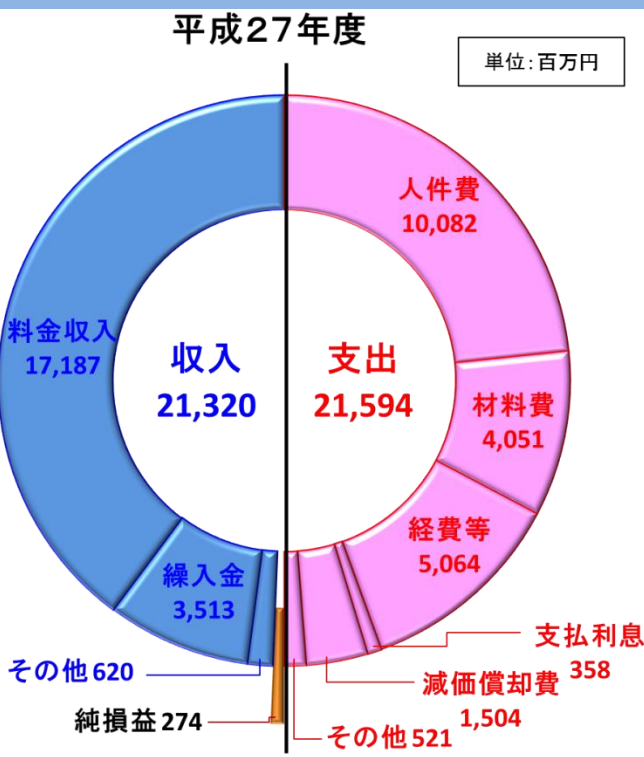


## 材料費対医業収益比率



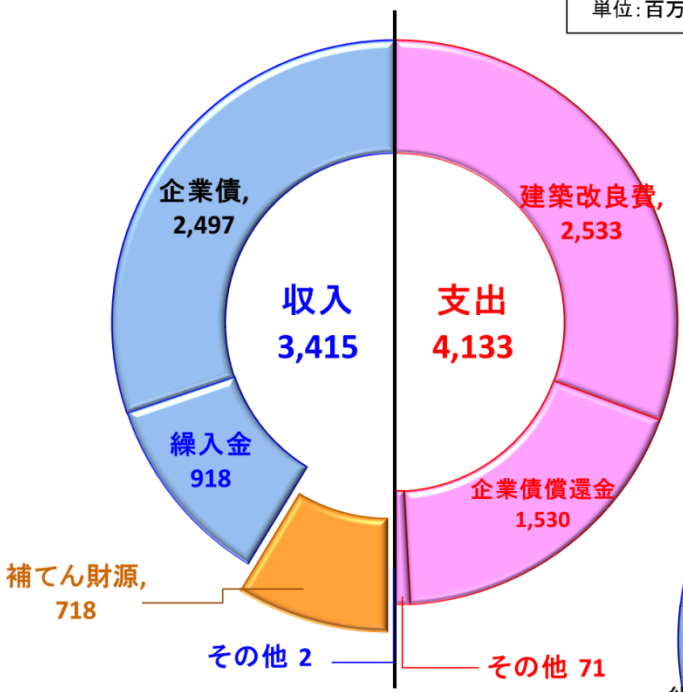
## 救急車搬送数





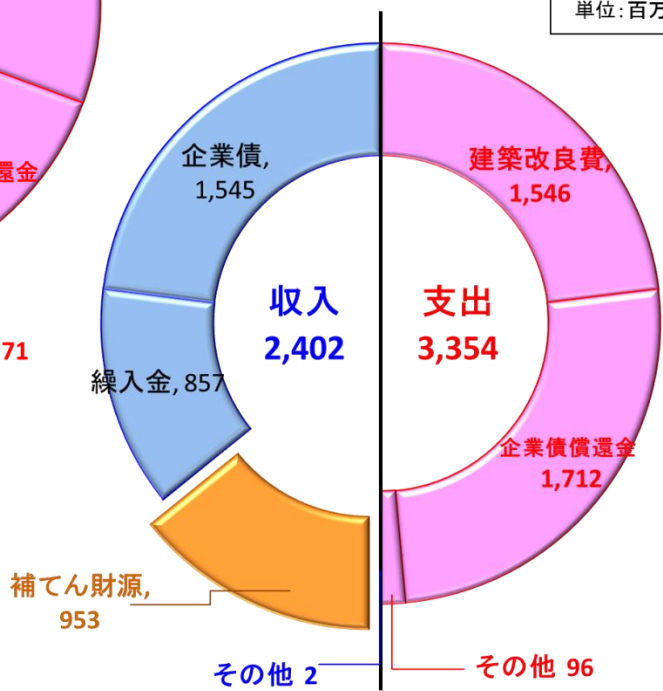
平成27年度

単位: 百万円



平成28年度

単位: 百万円



平成29年度

単位: 百万円

